

いたちかわらばん

通刊46号 颯川・独川 / 川原番・瓦版 '09 夏号

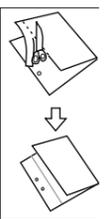


【版画 宗森英夫】

(稲荷森の水辺・休憩所)

切り取り線

この部分を切り取ってファイルにすると便利です



ホタルの思い出

小さな命の火が夏の宵の薄闇の中で飛びかう。幻想的なホタルは私たちの心をなごませてくれる。「近くの里山でホタルが見れる」と言う友人たちは驚き、うらやましがる。わざわざ電車に乗って確認に来たりする。ホタルを見に来た人々は、夏の夜を彩る光の乱舞に歓声をあげ、やがてその美しさと背中合わせに消え入るような儚さを感じて黙り込む。

ホタルの思い出ははるか少年時代にさかのぼる。蚊帳の中に迷い込んだホタルの青い光、卒業式に歌った「蛍の光、窓の雪・・・」、そう云えば蛍雪時代という雑誌もあった。私の場合、ホタルにまつわる感情はどういうわけか昭和の時代や空気への思いと結びついてしまう。いまふりかえってみると、子どもの頃はあったのに今はなくなったものの代表はひよっとしたら「土」と「木」と「水」かもしれない。アスファルトの道、化学製品の氾濫、ペットボトルの水、夜はこんなに明るくていいのだろうか・・・。便利な生活と引き換えに、私たちは昭和のあの頃になにか大きな忘れ物をしてきたような気がしてならない。

今年も、いたち川でホタルに会える。上郷の自然環境に感謝し、蛍をたのしむマナーにも心していきたいと思う。
上郷森の会 柴田 猛

◇ キャンドルナイト in さかえ2009 夏

～キャンドルの灯りに願いを～

平成21年7月18日(土) 本郷台駅前広場にて
(雨天・荒天は翌日順延)

- ◆ 巻絵灯籠作り 15:30~17:00
- ◆ 打ち水大作戦 in さかえ 16:00~17:00
- ◆ キャンドルの点灯 19:00~21:00
- ◆ オープニングセレモニー&ミニコンサート
出演: tomoko、鎌倉女子大学音楽ゼミと「めぐみ」、おかりな・どるちえ、ブルーエコー、森内直美(司会)



(昨年のキャンドルナイト展示品の例)

主催: さかえスロー・キャンドルプロジェクト
共催: さかえCO-DO30 推進協議会、栄区役所

◇ いたち川OTASUKE隊 新メンバー募集

私たちいたち川OTASUKE隊は、情報誌「いたちかわらばん」の編集発行を通じていたち川への関心を高め、愛護意識を広めることを目指して活動している区民グループです。現在、新メンバーを募集しています。いたち川に関する活動に興味をお持ちの方、私たちと一緒に活動してみませんか?

- ★活動日★ 原則毎月第4月曜日 19:00~21:00 (栄区役所会議室)
- ★活動内容★ (1) 「いたちかわらばん」の編集
(2) いたち川にまつわるイベントの企画、運営
- ★応募方法★ 住所、氏名、年齢、電話番号、メールアドレス (お持ちの方のみ) をご記入の上、ハガキ、FAX、またはEメール(sa-kikaku@city.yokohama.jp)にて事務局までご応募ください。

◇ 7~8月は「いたち川月間」です。

□栄区ではいたち川の魅力をもっともっと高めながら、川を活かしたまちづくりを進めるため、7・8月を「いたち川月間」として、川の周辺で行われるイベントをPRしていきます。

日時	イベント	会場	問い合わせ
7月19日(日) 8月16日(日) 10:00~	ホタルの宿はどこなところ?	瀬上市民の森 「池の下広場」	瀬上沢とホタルを守る会 Eメール segamihotaru@yahoo.co.jp
7月30日(木) 10:00~	いたち川大そうじ	大いたち橋・小いたち橋広場(区役所裏)	区役所資源化推進担当 TEL 894-8488 FAX 895-6990
8月23日(日) 10:00~	第19回 いたち川いかだまつり	大いたち橋・小いたち橋広場(区役所裏)	いたち川と親しむ会 滝口 TEL 0467-46-1942 高山 TEL 892-3302
8月29日(土) 10:00~	アメリカザリガニ大作戦	瀬上沢周辺(集合: ホタル掲示板)	瀬上の森パートナーシップ(SMP) Eメールsegami-ps@hotmail.co.jp

発行年月
2009年6月

通刊46号

発行: 独川OTASUKE隊 (いたちがわおたすけたい)

OTASUKE隊事務局: 栄区役所区政推進課企画調整係
栄土木事務所下水道・公園係
〒247-0005 横浜市栄区桂町303-19
TEL 045-894-8161 FAX 045-895-2260
〒247-0007 横浜市栄区小菅ヶ谷1-6-1
TEL 045-895-1411 FAX 045-895-1421
(お便り・お問い合わせは こちらまで)

いたち川の環境復元の紹介（復元の歩み その4）

今回は、本郷小学校上流の日東橋より神戸橋の“ふるさとの川事業”部分を紹介いたします。現在完了している部分は、日東橋から稲荷橋間の“扇橋の水辺”、辺淵橋から青葉橋間の“稲荷森の水辺”です。中途半端な観賞樹種の植栽は避けています。葉月橋より尾月橋間の“坊中の水辺”とその上流の紅葉橋間は部分的に完了しています。

“ふるさとの川事業”は前にも説明して来ましたが、全国の川の中から自然を保存する事を目的として指定された河川で、いたち川は昭和62（1987）年の第1回の「ふるさとの川モデル事業」に指定され、事業が進む中で“モデル”の語句を取り外されて現在に至っています。

“いたち川のふるさとの川事業”の方針

この区間は、治水上の問題解決のみにとどまらず、周辺地域の自然や歴史を取り込み、栄区のシンボルリバーとしての快適環境空間を創出することを目的としています。

また、いたち川は「限定された地域の中を流れる川」という位置づけでなくこの事業を遂行することによって全国の環境河川のモデルとなるものです。

整備のポイント

（1）河道の整備

河道内は、人工的ではなく自然に配慮した形で整備することにより、生態系の保全及び親水性を高め、水量を多く見せるよう停滞させて、水質を改善させる工夫がされています。河道側にはスロープを設けて、水辺に緩やかに近づけるように子供が安全に水遊びをすることが出来る様に配慮をしています。

（2）旧河道と拠点の整備

新河道と旧河道に挟まれる空間は、拠点として水辺と一体的に整備しております。各拠点間は水と緑の遊歩道とで結び、川の連続性を活かした整備が行われています。この水辺の拠点は、子供たちが安全に自由に遊べるよう多目的の広場をつくり“水と緑”の関係を学習できる場としています。

（3）川沿いの緑化

川沿いの現存緑地は、民地についても保存する緑地として指定し緑化推進への協力を促しています。植樹する樹種としては、災害時の街を守るための耐火樹種（カシの木類）であることを第一として、野生動物のための自然環境をつくりだす意味では、園芸植物を出来るだけ避けて近在にある樹種（ナラ、クヌギ、ネムなど）を選定し、食物連鎖の原点となる昆虫の食草となる樹種としています。園芸種であると樹勢が弱ると肥料を施したり、

病虫害の防除のために農薬散布の要望が出てきた場合などを考えると、水を汚したり野生動物に大きな打撃を与えることが予想されま

水辺拠点のイメージ

（1）水と緑のゾーン＝水と緑の織りなす「人に身近な自然」をテーマとするゾーン

○日東橋から尾月橋間・・・（緑と水のオープンスペース）

“扇橋の水辺” “稲荷森の水辺” “坊中の水辺” と尾月橋上流の（現在名前が付いていません）四つの水辺拠点を結ぶ川辺の小径から形成されており、その区間には證菩提寺があり左岸に“矢沢堀小川アメニティ”が流れ込んでいます。この水辺の拠点は洪水を緩和するための遊水池効果を持っていますので広場から緩やかなすり鉢型にして、誰でもが気楽に水辺に近づけるようにしています。

“扇橋の水辺”は広場に遊具を設け子供たちが多様な遊びが出来る様になっています。旧河道の両岸沿いには、旧家の屋敷林を保全することにより、その土地の集落景観を作り出し防火・防風・緑陰など多くの役割を持っているばかりではなく、鳥類（サギ類、カワセミ）の楽園としたのです。

“稲荷森の水辺” “坊中の水辺”は證菩提寺を取り囲むような自然から学ぶことができるような水辺空間を計画しています。て、鎌倉時代の歴史を学びながら休息する場所としています。

○青葉橋から中島橋間・・・（住民のふれあい広場）

中心部に“上郷市民の森”があり、取り囲むように川が蛇行して小さな森と水が融合するように小径が計画されています。県道から新しい橋を架け市民の森への新たな導線を設け、河の空間と森の空間を一体化させることにより人間と自然を結びつける試みをしています。

（2）水と歴史のゾーン＝水辺で歴史とふれあえることをテーマとするゾーン

○紅葉橋から千載橋間・・・（水と歴史のふれあい空間）

元中島橋上流には、江戸時代に構築された川のトンネルがあり、新河道はそれを保存するよう計画しています。川沿いにはいたち川の歴史を語るには欠かせない光明寺があり、旧河道と新河道の中に存在する形になります。

○千載橋から神戸橋間・・・（水辺の生き物ふれあい空間）（子供たちのわくわく冒険ランド）

千載橋上流右岸には、アーチの石橋（経堂橋）がありこの橋は、上流にある昇竜橋（神奈川100名橋に指定）と同時代に造られた橋です。現在、上郷地区センターは旧河道と新河道の中ほどに建設され、新河道には上郷橋、旧河道には蛸橋が架けられています。

その周辺の河川には稀少な生物が多く棲息していますので、水辺の生息する環境づくりをするとともに、子供や大人達が自然に触れ、

水・人・子（ミジンコ）

